



ボランティア・かわらばん No.122

編集／発行：安城市ボランティア連絡協議会（安城市社会福祉協議会内）
〒446-0046 安城市赤松町大北 78-4 Tel-0566(77)2945、Fax-0566(73)0437

2020年度 第2回 ボランティア連絡協議会の勉強会開催

2021年1月14日（木）社会福祉会館にて、会員のスキルアップのために勉強会を開催しました。講師は、言語聴覚士・認定補聴器技能士の井上ひとみ先生。「難聴の理解」耳が遠くなるってどうゆうこと？をテーマに講義を受けました。

聞こえの仕組み、難聴の種類、特に加齢難聴の具体的な症例について、音や声が高音部から聞こえなくなる、小さく聞こえる、音の響きが似ている、言葉を聞き間違えるなど分かりやすく解説していただきました。

勉強会を通じ老人難聴の人との接し方は、相手の視野に入り話す、はっきり、ゆっくり文節を区切って聞き取りやすい工夫と気持ちを理解する事から始め、コミュニケーションを豊かにするなど、高齢難聴者への配慮の必要性を学びました。



コロナ対策助成金申請状況

安城市ボランティア連絡協議会では、7月よりコロナ禍の中でボランティア活動をするためのコロナ対策助成金制度（年度内：上限1万円）を新設しました。

今年度34件の申請があり、支給合計金額は153,173円となりました。この制度は来年度も引き続き実施し、グループ活動に役立てます。

この助成金は、安城市ボランティア連絡協議会に加入している団体（会費：一人当たり200円）が対象です。加入を希望される団体は、安城市社会福祉協議会ボランティアセンターにご連絡下さい。この制度は新規加入グループもすぐ活用できます。

コロナ対策助成金利用状況(2020年11月からの利用)

グループ名	利用内容
舞歌の会	シールドマスク
稲荷23	シールドマスク他
グリーンそう	非接触型体温計
花かご	ペーパータオル他



活動支援助成金 2021年度も継続実施します

5万円までの助成金

安城市ボランティア連絡協議会では加入ボランティアグループに対して、活動がより充実するよう、セミナー、体験講座、視察研修などに必要な会場費、材料費、講師代などの費用の助成をしています。

運用に当たっては、年間を通していつでも申請でき、常任委員会の承認で、同一グループに対して5万円までの助成金制度となっています。新規加入グループも加入後1年後から利用できます。ぜひ当会へ加入し、皆さまの活用を期待しています。

ボランティア活動 グループ表彰

受賞おめでとうございます

第24回安城市社会福祉大会において(2021年1月16日)
ボランティア活動を積極的に推進した下記の団体に安城市社会福祉協議会会長より
感謝状が贈呈されました。

- 読話サークル「コスモス」
：聴覚障がい者との読話(相手の口や唇の動きを読み取り、話の内容を理解する方法)
勉強会・交流会
- 傾聴グループ みみより
：施設訪問して利用者の話に耳を傾ける
- 稲荷23
：東端町稲荷神社の清掃

◆ コラム ◆

ボランティアという言葉は、イギリスで17世紀中頃から使われ始めました。それは「自分達の地域を自分達で守る」ということを表していました。

日本に紹介されたのは、明治の終わり頃から大正時代にかけてと言われていています。ボランティア活動がもつ最大の力は「私」発であること。つまり自分自身が気になることや得意なこと、また憤りを感じることを、放っておけないと思うことなど、自発的に行動を起こすことが大切です。ここからスタートすることに大きな意味があるのです。

自発的、主体的に社会の多様な課題に取り組むことによって、様々な意見やアイデアが生まれ解決できます。それが地域社会の基盤を強くしていきます。一人ひとりが活かし合える住み良い社会をつくっていくために、ボランティア活動の魅力をみなさんに発信していきたいと思います。